

校正ノート No.12

2015.10

兄弟印刷株式会社
プリプレス部
校正担当／中里（内線 301）
制作／竹沢（内線 305）

ありがとう
80周年に感謝



備 忘 録 よ り

ア ト ラ ン ダ ム に 列 挙

- ・国家資格の宅地建物取引主任者は今年4月より、**宅地建物取引士**に変更となった。
- ・QRコードの適切な利用サイズ **16～30mm**
- ・おもむろに（徐に）…落ち着いて事を始めるさま。しずかに、ゆるやかに、おもむろに
やおら…そろそろ、しずかに、やわら どちらも同じ意味で、突然・不意に、の意味で使うのは誤用。
- ・「一段落」の読みは、いちだんらく。×ひとだんらく
- ・「活」は常用漢字表では「カツ」の音読みのみで、「いかす」の訓はない。常用漢字表に従えば、「いかす」は「生かす」。
- ・「確信犯」を「悪いこととわかっていながら、わざと行う発言や行為、また、それを行う人」とするのは俗用で、本来の意味は「道徳的・政治的・宗教的な確信をもって、正しいと信じておこなう犯罪、また、その犯罪者」。
- ・素読（そどく）…文章の意味を考えずに音読すること。（「論語」を素読する）
素読み（すよみ）…原稿との照合なしで校正刷りを読むこと。
- ・日本の異称
「蜻蛉島」（あきつしま）＝「秋津島」大和の枕詞。「うまし国ぞ蜻蛉島大和の国は」（舒明天皇・万葉集）
「葦原中国」（あしはらなかつくに）…神話で天上と地下の間とされる。
「言霊の幸う国」（ことだまのさきわうくに）
「日の本」（ひのもと）…「日の本の」は、大和の枕詞。
- ・年度…1月1日を年の初めとしない1年。会計年度、営業年度、物資年度（米穀年度、芋年度、麦年度など）
- ・享年～亡くなったときの年齢、行年とも。天から享けた年数ということ。正確には享年九十歳と言わず、享年九十と言ひ、歳は入れない。



言の葉、ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでいいのかともややもやした気持ちで仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

「規定」と「規程」

「規定」は個々の決まりを言い、「規程」は規定全体を指す。よって、「規程」は「規定」の上位概念である。

「規定」は動詞になり、「規程」は動詞にならない。○規定する ×規程する

「規定」は「規定○○」と後に名詞がつき、「規程」は「○○規程」と前に名詞がつく。

「体」と「身体」

「体」は物理的な肉体、生物全体に使える。「身体」は心を含む心身のことで、人間にしか使えない。

「身体」は常用漢字表に「からだ」の読みはない。



10月歳時記 神無月

- 1日(木) 衣替え…………… 平安時代から始まる習慣、当時は「更衣」
- 8日(木) 寒露…………… 二十四節気の一。野草に宿る冷たい露のことで秋も本格化
- 11日(日) 一草忌：種田山頭火…………… 自由律俳句 「静」の放哉（咳をしても一人）、「動」の山頭火（分け入っても分け入っても青い山）
- 12日(月) 体育の日…………… 1964年10月10日東京オリンピック開会式の記念から
時雨忌：松尾芭蕉…………… 最期の句 旅に病んで夢は枯野をかけ廻る
- 24日(土) 霜降…………… 二十四節気の一。初霜の知らせ、秋が深まる
- 25日(日) 十三夜…………… 旧暦9月13日、十五夜の次の名月から「後（のち）の月」とも
- 30日(金) 紅葉忌：尾崎紅葉…………… 名の如く華麗な文章で人気作家に



●神無月…… 全国の神々が出雲大社に集まるので神のいない月というのは中世からの俗説で、神を祭る月＝神の月で「無」は「水無月」同様「の」のこと、という説が有力らしい。

●更衣(こうい)…… ころもがえ、衣服を替えること。元は平安時代、天皇が衣服を着替える場所のことを言ったが、のちに側に仕える女官のことをも言うようになり、女御(にようご)に次ぐ位となった。

●納音(なっちん)…… 60の干支を五行（木・火・土・金・水）に分類し、さらに形容詞を付けて30に分類したもので、運命判断に用いられた。山頭火、萩原井泉水(せいせんすい)等は、ここから俳号をとった。

竹沢メモ

先日、初めて劇団四季の「ライオンキング」を観劇してきました。会場には季節の名がついており、時期は秋ですが今回は「春」の会場での公演でした。役者の方々の声と動きに圧倒され、途中眠気に襲われましたが意外とギャグ要素も入っていて、一部二部と共に楽しむ事ができました。次回は「アラジン」を観に行きたいです。